

田端文士村記念館 企画展 2017-18

芥川龍之介の結婚と生活



ワタクシハアナタヲ愛シテ居リマス

小鳥ノヤウニ幸福デス

入場
無料

2017年 2018年
10/7(土) ~ 2/4(日)

会場: 田端文士村記念館

(JR山手線・京浜東北線「田端駅」より徒歩2分)

開館時間: 10:00 ~ 17:00(入館は16:30まで)

休館日: 月曜日(祝日の時は火・水曜)、祝日の翌日(土日の時は翌火曜)、年末年始(12/29 ~ 1/3)

【主催】(公財)北区文化振興財団 田端文士村記念館 【共催】東京都北区

【協力】芥川耿子、宮坂覺、国際芥川龍之介学会、国際交流基金、藤沢市文書館

写真提供: 芥川耿子氏

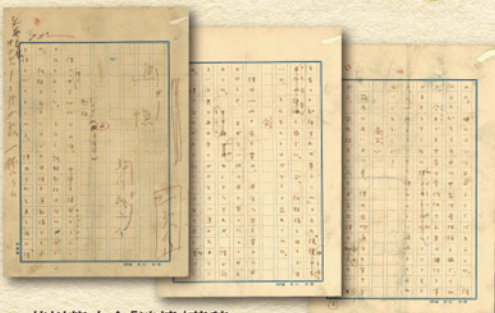
芥川龍之介の結婚と生活

1918(大正7)年、芥川龍之介と塚本文は田端の料亭・白梅園で祝言を挙げ、天然自笑軒で披露宴(表面・写真)を行いました。2018(平成30)年2月2日は、2人にとっての100回目の結婚記念日です。この展覧会では、**初公開**となる龍之介から文に宛てたラブレターや、結納の目録を展示するほか、3人の息子たちとの田端での暮らしぶりなどをお伝えします。

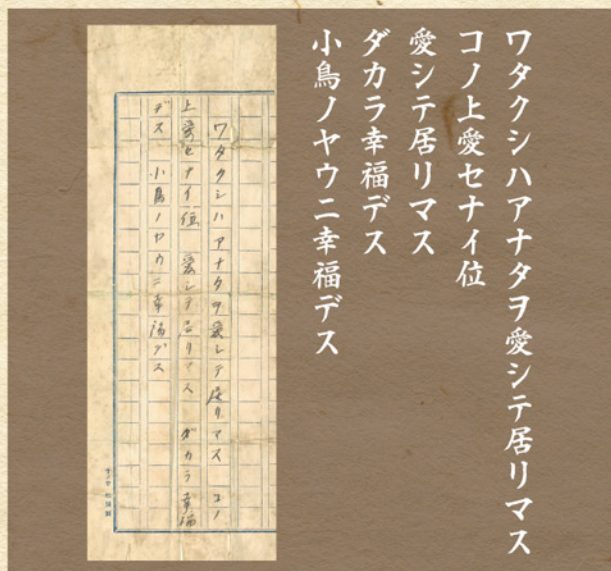
また、2017(平成29)年は龍之介にとって没後90年、そして死を看取った主治医・下島勲の没後70年にあたります。2人をはじめとした龍之介の幅広い交友関係に焦点をあて、作品とともに周辺の田端文士・芸術家との交流を紹介します。



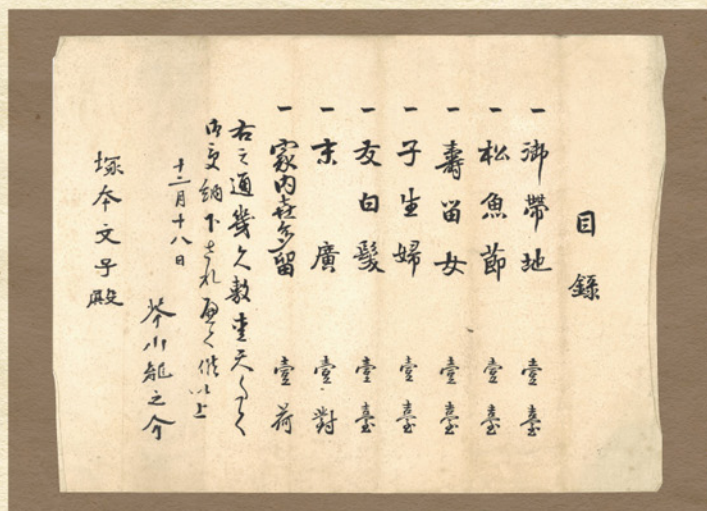
▲芥川龍之介 田端の家復元模型(1/30スケール)



▲芥川龍之介「追憶」草稿



▲初公開 芥川龍之介 文に宛てたラブレター



▲初公開 結納品目録



あくたがわりゅうのすけ
芥川龍之介 小説家

1892(明治25)年~1927(昭和2)年

東京・京橋出身。

1914(大正3)年、一家で田端435(1-20)番地に新築転入。東京帝国大学時代、久米正雄、菊池寛らと第3・4次「新思潮」を創刊。夏目漱石の木曜会に出席し門下となる。「羅生門」「鼻」等を次々と発表、一躍文壇の寵児となる。一ノ宮、鎌倉、横須賀、鶴沼にも住んだが、1919(大正8)年、田端に戻り本格的に文筆活動を展開。書齋を「我鬼窟」のちに「澄江堂」と称す。たぐいまれな才気と下町人特有の世話好きな性格は多くの人々を引き付け田端を「文士村」とする。

1927(昭和2)年7月、「唯、ぼんやりした不安」という言葉を遺して自らの命を絶った。

関連講演会(無料) 会場は多目的ホール

「芥川ファミリーロマンス」島田雅彦氏

現在、芥川賞選考委員を務める作家・島田雅彦氏。芥川龍之介のいわゆる“キリシタン物”と呼ばれる作品の中から「家庭」や「結婚」についての考察を見出し、新たな視点で芥川像に迫ります。



▲島田雅彦氏

12/3(日) 14:00開演(13:30開場)

申込…往復はがきで11/20(月)まで。

1通につき1名(同居家族に限り2名まで可)。

往信用裏面…①講演会②住所③氏名

④電話番号⑤年齢

返信面表面…応募者の住所・氏名



(公財)北區文化振興財団

田端文士村記念館

〒114-0014東京都北区田端6-1-2 ☎03-5685-5171

(JR山手線・京浜東北線「田端駅」より徒歩2分)

※駐車・駐輪場は隣接の有料施設をご利用ください。

URL: <http://www.kitabunka.or.jp/tabata/>



@bunshimura

入場
無料